

第76回卒業証書授与式 式辞

今年、通用門の梅の花は既に満開となり、昨年より季節が進むのが早いように感じられます。今日は、朝までに雨が上がり、冷たい空気の中にも春の光が眩しく輝き、皆さんの門出をお祝いしてくれています。

76期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

皆さんの今日までの日々を振り返ると、中学校の時に新型コロナウイルス感染症が発生して、最上級生となった3年生では、いきなり2か月間の臨時休校となり、不安な気持ちで過ごされたことと思います。発生から4年がたち、ようやく以前の生活が戻って来ました。普通であれば、子どもから大人へ成長していく大切な時期である中学、高校で、当然経験するはずのことが、制限の多かった生活のためにできなかったのではないかと思います。

私が着任した2年前、朝の挨拶の時に出会った皆さんは、活発で個性を感じられる人が多いというのが最初の印象でした。まだまだ制限の多い中でしたが、既に部活動や、学校行事で中心となって活動し、3年生の皆さんと力を合わせて盛り上げようとされていました。

皆さんとの思い出は何といっても修学旅行です。本当に良いお天気に恵まれた4日間でした。2日目の夜は気温が一桁で寒い日でしたが、星空観察で天の川を見ることができました。一番印象に残っているのは、ラフティングです。班ごとに赤、青、緑、黄色のドライスーツをまとった皆さんは、陸地でフォーメーションの練習をするときから、声も大きく、そのトーンも高く、大いに盛り上がっていました。本当に楽しそうでした。これまでの制限から一気に解放された大きなエネルギーを感じました。

3年生となった皆さんからは、朝の挨拶においても大人になったことが感じられるようになりました。次の4月から皆さんの登校する姿を見ることができないと思うと大変寂しく思います。今年度、様々な行事を制限なく実施することができるようになり、この1年間は、皆さんにとって失われた3年間を取り戻す期間であったのではないのでしょうか。藤蔭祭の体育の部、文化の部ともに皆さんの活躍で大きな成功を収め、新たな伝統をまた一つ繋ぐことができました。本当にありがとうございました。

コロナ禍の4年間、私たちが学んだことは、何気なく送っている毎日は決して当たり前ではないということです。これからの時代はまさに予測困難です。自然災害もいつ起こるかわかりません。また、海外での紛争も決して遠くの国の出来事ではありません。一日一日を悔いのないように、大切に過ごしたいものです。今日この日を迎えることができたことも、関係する多くの方々のお力添えがあつたのことに感謝しています。

さて、皆さんの夏休みの成果である「あゆみ」を今年も読ませていただきました。身近な体験から皆さん自身が気づいたことや学んだこと、大人としての自覚、そしてこれからの人

生への抱負、一人一人の考えたことが生き生きと綴られていました。今回で64号を迎えましたが、長年続いているこの伝統も貴重な取組みであると考えています。1学期の終わりにもお話ししましたが、生成AIが登場し、いくつかのキーワードを与え、指示することで文章が作成できるようになりました。大学でもレポートの作成等にあってガイドラインを示すなど対策が進んでいると聞いていますが、科学技術はうまく活用しつつも、これからも自分の中から湧き出てくる表現を大切にしてほしいと思います。

また、体験こそがAIと人間の違いです。4月からそれぞれの道に進んでいかれますが、これからも失敗を恐れずに様々な体験をし続けてほしいと思います。体験からの気づきや学びは人さまざまです。複数の人間が、同時に同じことを体験したとしても、一人一人感じるところや興味を持つところが異なることがしばしばあります。人は他の人との比較において自分を知ることがあります。それはその人の個性であると考えています。

卒業後もこの春日丘で学んだことを胸にそれぞれの個性をより一層大きく育て、進んで行ってください。そして共に社会を創っていきましょう。

結びに、保護者の皆さま、お子様のご卒業誠におめでとうございます。これまで本校の教育活動にご理解とご協力を賜り誠にありがとうございました。また、本日ご臨席賜りましたPTA、藤蔭会、後援会役員の皆さま、誠にありがとうございました。大人の仲間入りをする生徒たちが、本当の意味で自立するまでまだご支援が必要かと思います。引き続き、よろしくお願い致します。

76期生の皆さんが、自主・自律・自由な校風の中で培われた力に自信をもって、新しい場所で、自分らしく活躍していただくことを強く願いまして、卒業にあたってのメッセージといたします。

令和6年3月1日

大阪府立春日丘高等学校
校長 濱崎年久